様式第２号(第５条関係)

審　議　会　等　会　議　録

発言者	会議のてん末・概要

○第２回久喜市総合振興計画審議会

司会 （関口課長）	お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。ただ今から、第２回久喜市総合振興計画審議会を開会させていただきます。 本日は、20名中、17名出席であり、過半数に達しておりますので、久喜市総合振興計画審議会条例第７条第２項の規程により、本会議が成立いたしますことを、ご報告させていだたきます。 次に、ご了解いただきたい点が２点ございます。まず、会議録を作成してホームページ等で公開するため会議内容を録音させていただきます。 次に、本会議は審議会等の会議の公開に関する条例第３条に基づきまして公開となりますことから、傍聴を希望される方がいる場合は、会議の傍聴を認めることとしていますので、ご了解をお願いします。 続きまして配布資料の確認をさせていただきます。 久喜市総合振興計画審議会次第 資料１　久喜市総合振興計画（後期基本計画）市民意識調査報告書 資料２　平成27年度久喜市総合振興計画（前期基本計画）施策別進捗状況 資料３　平成28年度施策評価シート（平成27年度実施施策） 以上、次第を含めまして、４点でございますが、不足はありませんでしょうか。

２　会長あいさつ

司会 （関口課長） 浅野会長	それでは、続きまして、浅野会長からご挨拶を頂戴したいと思います。 おはようございます。本日は、第２回ということで、お集まりいただきありがとうございます。前回は審議会の趣旨や、策定に向けての流れについて説明がありましたが、今回は市民意識調査の結果報告と、前期基本計画の進捗状況について、事務局から説明がございます。市民意識調査の結果から市民の状況や、前期基本計画の進捗状況を後期計画に反映させる、というのが趣旨となります。内容を確認い

	ただき、ご審議いただきたいと思います。ご協力のほどよろしくお願いいたします。
司会 （関口課長）	ありがとうございました。次に、会議録に署名をいただく委員の確認をお願いいたします。
浅野会長	名簿順に２名ずつということで、今回の署名は折原委員と進藤委員にお願いしたいと思います。
司会 （関口課長）	会議録につきましては、事務局で作成後、委員の皆様に郵送し、ご確認いただくことを考えていますのでよろしくお願いします。

３－（１）　　議題　市民意識調査の結果について

司会 （関口課長）	それでは議事に移らせていただきます。浅野会長、よろしくお願いいたします。
議長 （浅野会長）	円滑に議事が進みますように、皆様のご協力をお願いします。 まず、議題の（１）「市民意識調査の結果について」事務局より説明をお願いします。
事務局 （木村係長）	資料１ 久喜市総合振興計画（後期基本計画）市民意識調査報告書について説明
議長 （浅野会長）	ただいまの説明にご質問、ご意見はございますか。
冨田副会長	回答が 2,545 件というのは、これだけの質問数なのに、非常に回答率が高いと感じました。
事務局 （木村係長）	回答期限の期日前に、お礼状兼催促状を出させていただきましたが、このことも高い回答率に結びついたと考えています。
冨田副会長	抽出は無作為ということですが、市民の年齢構成を踏まえると、回答者がこうした高い年齢構成になるのだと思いました。
枝委員	前回は男女各 1,500 名で 3,000 名。その際は有効回収数という言葉で、今回は有効回答者数ということですが、これは同じことですか。
事務局 （木村係長）	はい。前回と同様でございます。
枝委員	今回の回答者の属性について、７ページを見ると、一番多い年齢は

	65歳～69歳。また、60歳以上の割合を合計すると49%と全体の約半分ということで、当然、高齢者の福祉充実といった意見が出てくると思います。反対に現役世代の意見が十分に反映されていないということにつながります。この辺りの改善策・対応策をどのように考えていますか。前回、平成22年にやって以来6年ぶりです。貴重な意識調査です。 もう一点。48ページの生涯学習の設問についてお聞きします。「子どもから高齢者まで、年代に合わせた学習機会の提供・充実」が52.9%ということですが、この辺の設問が抽象的ではないでしょうか。もう少し具体的な設問にできませんか。市民大学や高齢者大学等が市民にどれだけ浸透しているか、ということも含めて具体的なことを設問にして欲しかったです。市民大学も参加人数が非常に少なくなってきています。東京理科大学の跡地に生涯学習センターができるということもあわせて、その辺にもう少し力をいれた設問も入れていただきたかったです。
議長 （浅野会長）	すでに実施した調査なので、今の意見を今後の調査に生かしていただければと思います。
中村委員	対象者が5,000人ということですが、無作為に抽出するというのはどういうことですか。抽出手法を教えていただきたいです。
事務局 （斉藤担当主査）	まず、平成28年10月1日を基準日としまして、住民基本台帳から18歳以上の方をデータとして抽出しました。その上で、各人に重複のない不作為の数字を割り当て、その数字の小さい方から、男女別に2,500人を抽出しました。
後藤委員	返答が返って来なかった方の年齢層はどのようになっていますか。
議長 （浅野会長）	質問を送った方の年齢比率はどのようになっていたかということですか。
後藤委員	このくらいの年齢の方に送ったら、これくらいの回答しかなかったということを知りたいと思いました。
議長 （浅野会長）	事務局より後ほど回答をお願いします。
平委員	久喜市を住みよいまちにという観点では、災害・防災の面から考えて、コミュニティは我々の基本になると思います。122ページでコミュニティ活動の推進が満足度として、3.18で一番上になっていますけど、本当に地域活動が出来ているのかが重要だと思います。隣近所とどのように毎日の付き合いをしているか、個人情報の制約はありますが、隣近所の人のことをわかっていないと地域のコミュニティが

	成り立たないと思います。コミュニティ活動の内容について、行政も積極的にやっていくことが大事。コミュニティ協議会に協力を求めることも大事だと思います。
議長 （浅野会長）	回答者の属性について、９ページで、年齢層が高いということもあり無職の方が多いようです。学生は 2.7%。農業・工業・観光等の項目について聞いていますが、現役世代の方からの回答が少ないので、クロス集計の結果がないと詳しく分からないと思います。実際に通勤通学をする年齢ではない人の中で、何%といっても意味がないと思います。そのあたりをもう少し見えやすくしていただければ良かったと思います。
事務局 （木村係長）	クロス集計の結果を掲載することは可能ですので、追加掲載していきたいと思います。 先ほどの質問について、若い世代の声・現役世代の声について届きにくいのではないかということでしたが、今回５歳刻みで回答の傾向を出しているので、年齢別の回答から意見を探っていき、計画素案に反映・検討していきたいと思っています。
枝委員	今後高齢者が増加する傾向にあるので、そうしたことを加味した市民意識調査をやっていただきたいと思います。
事務局 （木村係長）	年代ごとの回答率についてですが、やはり若い世代の回答率が低い傾向にありました。逆に 60 歳代や 70 歳代では回答率が高くなっていました。また、それらの世代は母数も多いことからこのような結果となりました。今後、クロス集計の結果については、可能な限り追加掲載していきたいと考えています。

３－（２）　議題　前期基本計画に基づく施策の進捗状況等について

議長 （浅野会長）	それでは、つづきまして、議題の（２）「前期基本計画に基づく施策の進捗状況等について」事務局より説明願います。
事務局 （斉藤担当主査）	資料２　平成 27 年度久喜市総合振興計画（前期基本計画）施策別進捗状況 資料３　平成 28 年度施策評価シート（平成 27 年度実施施策）について説明
議長 （浅野会長）	ただいまの説明にご質問、ご意見はありますか。
坪井委員	27 ページの「医療体制の充実」に関して「とねっと」の参加申し込み者数の達成度がかなり低くなっていますが、この施策の進め方に

	ついても見直しを進める必要があると感じました。新年度に向けて、検討をしていただければと思います。
後藤委員	11ページの「情報の活用と個人情報の保護」に関して、個人情報保護法が私たちの地域活動の妨げになっています。これは国の法律だと思いますが、緩和することはできないでしょうか。地域の防災活動をするにしても、隣人の情報が分からないと地域の助け合いができない状況です。もしここで回答が得られるならお願いしたいと思います。
事務局 （関口課長）	もっともなご意見と思います。市としては、地域の福祉の担い手の方にはできる範囲で情報提供をしています。今後自助、共助が重要となっていく中で、法律の制約もありますが、可能な範囲で情報提供していきたいと思います。
平委員	今の話ですが、基本的にコミュニティを活性化するためには、住所・氏名・電話番号程度は知る必要があります。自治会でも名簿を名前だけにしたことがありますが、非常に困りました。誰かに何かを頼むとき、いちいち家に行かなければなりません。そうした経験から、現在は元に戻しましたが文句が出ることはありませんでした。行政として、「これぐらいはいいのではないか」という所まで言うのは難しいのでしょうか。
後藤委員	埼玉県、特に久喜市は個人情報保護条例に忠実で厳しい印象です。平委員の話にもありましたが、ある程度公開していただかないとコミュニティの構築は難しいと思います。
議長 （浅野会長）	議論の方向性を整理する必要があると思います。11ページの情報公開の推進の意味は、行政情報の推進のことと思いますが、今、議論されている地域福祉・地域コミュニティをどのように進めるか、とは意味合いが異なりますので、今のお話はご意見として承れればと思います。
坪井委員	13ページの施策の基本的方向性とその中身である施策の展開については、整合性を図っていく必要があると前期の事業をみて感じました。また、11ページの前期の施策の方向性をみると、豊かな自然を守るために「樹林地や屋敷林の保全を推進すると共に、動植物の生態系を育む等、自然環境の保全創造に努めます」とありますが、施策をみると、該当する項目がわかりにくいので、後期計画ではよりわかりやすく記載していただければと思います。
議長 （浅野会長）	今のご意見については他の所にも関わる意見と思います。例えば「情報公開の推進」がホームページのアクセス件数で測れるのか。どちらかというと市政に関心の高い方は高齢であるのに、ホームページ

	のアクセス数は指標として良いのか。そうした整合性の問題はあると思います。 　もう一点、資料２の裏側にわかりやすくまとめていただいている大項目ごとの目標の達成状況にかなり偏りがあると思いますが、事務局はこのことについてどのように分析されますか。測定しやすい指標でやっているためと思いますが、７つある指標のうち２つが下回っているのはどういうことでしょうか。
事務局 （関口課長）	これに対する評価は特にしていません。毎年こうした評価をしていますが、その状況はそれぞれの担当課が確認し、目標を上回るよう努力しているところです。
後藤委員	保育所待機児童数は、久喜市ではゼロなのでしょうか。
事務局 （関口課長）	表にあるように、過去３年間、４月１日現在では発生していない状況です。
後藤委員	そういう点では素晴らしい環境だと思います。しかし、幼児教育の充実は目標を下回っており、その点にギャップを感じています。内容を見ると家庭教育学級の参加数となっていますが、それについてもギャップを感じます。
冨田副会長	もともとの評価シートはどなたが作成し、どなたが評価したかの経緯を教えていただければと思います。
事務局 （木村係長）	指標名・数値は進捗度合いを図るために前期計画の策定時に定めたものです。当時も議論があった上でこうした指標を設定したと思いますが、今回の後期計画策定にあたり見直すべき指標や数値があるかと思いますので、今後検討していきたいと思います。
冨田副会長	本来の目標とその達成度を測る数値がずれていると、おかしなことになると思います。
事務局 （関口課長）	補足説明させていただきます。当市では、行政評価というシステムを取り入れており、今回提出させていただいたのは事務事業、施策、政策の三段階評価のうち真ん中の施策レベルの評価です。これらについては、毎年担当課において評価を行い、その結果をまとめたものを行政評価委員会からご意見をいただき、その結果を主管課に返して事業のブラッシュアップを図っている所です。例えば資料３の 12 ページにあるように、評価シートの最後のところに行政評価委員会の意見という部分があります。こうした意見を主管課に返して、さらなる事業のブラッシュアップに役立てています。

議長 （浅野会長）	他に意見がないようであれば、次の議題に移ります。

３－（３）　議題　その他

議長 （浅野会長）	次に議題の（３）その他ですが、委員の皆様から何かございますか。
岩崎委員	これからの進め方で気になることがあります。学校教育の問題について、義務教育、児童生徒数が少子化で子供の数が全国で 100 万人を切ったところです。久喜市でも同様の傾向があり、菖蒲南中学校も一学年一クラスの危機ということです。学校の校長や教頭と話をしていると、中々教育に携わるトップとして、統合については言及しにくいようです。また、市長もその辺については本音を言いにくいようです。久喜市は平坦な土地で、菖蒲地域では全域が距離的に通学範囲となり得ます。菖蒲南中の生徒が菖蒲中学校に通うとしても５㎞。通えないことはありません。そのため、統合も検討してはどうでしょうか。子どもの人数が減ると、クラス替えもできないし、野球などクラブ活動をするにしても支障が出てきます。久喜市として学校統合についても検討していいのではないでしょうか。議会や市長、校長等では難しい話題と思うので、ここの場で話し合いをすることはできないでしょうか。素案を作る前にそうした議論ができると良いと思います。この他にも良い方法があれば検討いただければと思います。
事務局 （増田部長）	少子高齢化で児童生徒が減少している状況は現実にあります。また人口ビジョンを見ても今後人口は確実に減っていくことが予想されます。学校統廃合の課題は、ご意見を頂戴したところですが、難しい問題です。議論の中心は教育委員会や議会となると思いますが、市全体で検討が必要と思います。
坪井委員	教育委員会から出席しているので、学校のことについてお話ししますと、教育委員会でも、学校再配置については検討が始まっておりまして、これから住民の方々の意見を聞くところなのでご報告しておきたいと思います。
進藤委員	感想となりますが、アンケート調査報告書をみて感動しています。前回アンケートに回答した方が、どのような心境の変化を持って今回回答したのだろうと想像しました。先ほどの学校統廃合の意見についても共感しました。これから工業・商業に携わりながら、どうやっていくのかわくわくしました。すごい計画なのだなと実感しています。
枝委員	今後、後期基本計画を策定するにあたり、どのように進めていくのか事務局の考えを教えていただければと思います。

事務局 （関口課長）	総合振興計画・前期基本計画の策定から５年が経過し、これからの５年を考えていく段階にあります。根幹の構想の部分は 10 年間となりますので、基本計画について後半の５年の部分をこれから見直すというところです。これからの時代にあった行政を進めていく必要がありますが、根幹の部分は踏襲し、施策レベル以下の内容を見直していきたいと思っています。
議長 （浅野会長）	事務局から何かありますか。
事務局 （木村係長）	次回の審議会の開催についてですが、３月 28 日（火）10 時からを予定しています。次回の内容については、計画のたたき台を提示させていただき、議論できればと考えております。
議長 （浅野会長）	議題については以上となります。それでは、進行を事務局にお返ししたいと思います。

６　閉会

司会 （関口課長）	浅野会長、議事の進行、ありがとうございました。また、長時間にわたるご審議ありがとうございました。 それでは、以上を持ちまして、第２回久喜市総合振興計画審議会を終了させていただきます。大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

会議のてん末・概要に相違ないことを証明するためにここに署名する。

平成２９年２月２０日

久喜市総合振興計画審議会委員　　折 原　貞 夫

久喜市総合振興計画審議会委員　　進 藤　律 子